

関連項目：教育活動プラン②、③、④

「これがあれば大丈夫ブック」でかかわり方を身に付ける

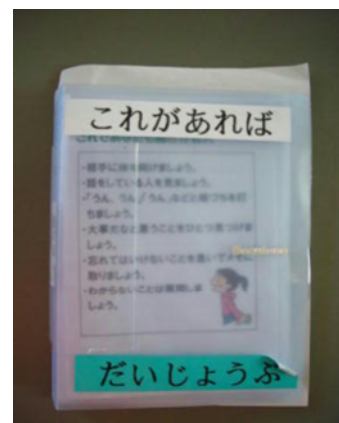
目的

本校の児童は、明るく素直で活動的な子どもが多い。しかし、自分の思いを的確に伝えたり、相手の思いを聞き入れたりするなど、人間関係を円滑に営むうえで重要な「話す」「聞く」ことができにくい子どもも少なくない。そこで、かかわり方を身に付ける支援グッズ「これがあれば大丈夫ブック」や「けじめカード」を開発・活用し、コミュニケーション能力を高めることとした。

内容

● 「これがあれば大丈夫ブック」の作成

- ・「分かりやすく簡潔に話す」「正しく的確に伝える」「豊かに言い表す」等の聞く・話す技術を身に付けるために必要な支援ツールを「これがあれば大丈夫ブック」にまとめる。
- ・友達とトラブルを起こしたときの対応や、学習中の話型・集会時の感想発表・朝のスピーチの仕方等、様々な生活場面でのヒントとなるものも「これがあれば大丈夫ブック」にまとめる。



● 教育活動での支援グッズの活用

- ・学習・生活の場面で困ったときのアドバイスカードとして活用する。そのため、即座に理解できるように、必要な支援を挿絵や短い言葉で提示する。
- ・学習規律として、身に付ける事柄や学習のサインをカードに表し、各自の机の横につけて活用する。
- ・「支援カードコーナー」として、教材の系統性を考え、既習事項は、教室の側面に掲示し、必要な支援を自分から求め、学ぶ意欲を高める。



● 支援グッズの改善

- ・だれもが使えるように、一般的なものからスタートし、ブックの内容を個に応じて削除したり、追加したりしていく。
- ・カードの作り方がつかめた児童には、自分で自分のためのページを作っていくよう指導する。
- ・「聞ける」「話せる」ためのグッズの内容や表記法の系統性を考え、子どもの発達段階に応じたものへと改善していく。

成果

・集団の中で学習を進めていく時に「困っていてもそれが伝えられない」児童が手がかりになるものを活用していく姿が常に見られた。また、目で見て分かる支援グッズを多く使うことで児童が自ら判断できる場の設定となり、かかわり方を徐々に身に付けていくことができた。

・どんな支援があれば児童が学習に集中し、「聞く」「話す」力を身に付けたり、コミュニケーション能力を身に付けたりできるかを全職員で考えていったことで、児童に寄り添い、その成長を願う教師の地道な取り組みがみられるようになった。